



君はリアル・オビラメをみたか？

オビラメの会は8月3日、有島記念公園内の「有島 Pond」で、見学会「巨大魚イトウに会いに行こう」を開きました。ニセコ町有島記念館の共催、ニセコ町・ニセコ町教育委員会・後志地域生物多様性協議会後援の恒例イベントです。

晴天に恵まれ、夏日を記録したこの日は、夏休みの親子連れや長期滞在中の年配夫婦ら、ニセコ町内外のおよそ30人がPondのほとりに集まりました。Pondでは現在、約40尾のイトウ親魚を飼育しています。コウナゴの切り身やライブベイト（オビラメの会会員が近くで釣ってきたばかりのフナ）を投げ込むと、巨大な魚が勢いよくライズ。まるで水面が続けざまに爆発しているかのような光景に、水辺の人垣から歓声とシャッター音が湧き起こりました（上の写真、足立聡撮影）。

Pond見学の後是有島記念館に移動し、オビラメの会会員で水中写真家の足立聡さんによるスライドショーを楽しみました。尻別川の自然繁殖地をはじめ、道内各地に取材した野生イトウたちの美しい映像が披露され、終演後も客席からの質問が続いていました（下の写真、平田剛士撮影）。



今秋の稚魚放流計画は断念

来季の再開に向けて新しい再導入河川を探索

オビラメの会は、2019 年秋に実施予定だったイトウ人工孵化稚魚の再導入（補充放流）を見送りました。

当会は 5 月 12 日、有島ポンドで飼育している親魚から計約 1 万粒の人工採卵と人工授精に成功しました（会報 50 号参照）。しかし、その後の経過は芳しくなく、採卵から 1 週間後には受精卵の大半が「死卵」と判定されたほか、水槽内でかろうじて孵化した稚魚もうまく成長できず、2 カ月目の生残率は 1 % ほどと、きわめて不良でした。

イトウ種苗の再導入／補充法によって尻別川個体群の復元を図ろうとする当会は、2004 年から 2018 年にかけて断続的に、尻別川流域で計約 9000 尾の人工孵化稚魚を放流しています（表）。このうち倶登山川流域（倶知安町）

では 2019 年春、再導入第 2 世代野生魚の繁殖行動が観察され、この手法によって尻別川にイトウの自然繁殖地を再生できることを改めて確認しました。

毎年の種苗生産がますます重要となるなか、今季も万全を期して作業にあたってきましたが、残念ながらうまくいきませんでした。当会はすでに、来季の成績改善に向けて、親魚の飼育法、採卵・人工授精のタイミング、衛生管理の見直しを進めています。



尻別川の源流部にあたる喜茂別町内の河川で、新たな再導入ポイントを探索するオビラメの会会員たち。イトウの往来を妨げているとみられる頭首工（小ダム）の改修と人工孵化稚魚の放流を組み合わせ、イトウ繁殖地の再生を目指しています。2019年10月14日、平田剛士撮影。

オビラメの会による尻別川水系での人工孵化稚魚放流実績

放流日	放流場所	人工授精日	放流数	放流時の年齢	現在の年齢	標識(カット部位)	備考
2004/09/25	倶登山川A川B川	2004/05/07	1789	0	15	アブラビレ	ヒラフポンド飼育魚
2005/06/25	倶登山川A川	2004/05/07	74	1	15	アブラビレ	小学校飼育魚
2005/06/25	倶登山川B川	2004/05/07	1000	1	15	アブラビレ、右腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2005/06/25	倶登山川A川	2004/05/07	500	1	15	アブラビレ、左腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2005/06/25	倶登山川A川	2004/05/07	100	1	15	アブラビレ、左腹ビレ	さけ科学館飼育魚
2005/10/12	名無川	2004/05/07	476	1	15	右腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2007/09/24	倶登山川A川	2007/05/20	1000	0	12	アブラビレ、左腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2008/06/21	倶登山川A川	2007/05/20	1223	1	12	アブラビレ	ヒラフポンド飼育魚
2008/06/21	倶登山川A川	2007/05/20	40	1	12	アブラビレ	小学校飼育魚
2011/07/02	倶登山川A川	2010/05/16	223	1	9	アブラビレ、右腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2014/05/23	倶登山川	2012/05/20	66	2	7	アブラビレ、左腹ビレ	ヒラフポンド飼育魚
2015/10/23	倶登山川A川	2015/05/20	760	0	4	アブラビレ	ヒラフポンド飼育魚
2015/11/07	第2カシュンベツ川	2015/05/20	700	0	4	アブラビレ	ヒラフポンド飼育魚
2018/10/14	倶登山川A川	2018/05/12	520	0	1	アブラビレ	有島ポンド飼育魚
2018/10/14	第2カシュンベツ川	2018/05/12	520	0	1	アブラビレ	有島ポンド飼育魚
		合計	8991				

環境と防災のWIN-WINを図ろう

尻別川河川管理者と連絡緊密化を約束

絶滅に瀕しているイトウ尻別川個体群を復元するためには、流域のみなさんの深いご理解とご協力が欠かせません。なかでも、河川法第7条が定める「河川管理者」とのコミュニケーションはとくに重要です。オビラメの会は今年、尻別川中上流域の河川管理にあたる北海道後志総合振興局小樽建設管理部との間で、河川工事や自然環境状態などの情報を共有するために、これまで以上に緊密に連絡しあうことを申し合わせました。

きっかけは、今年3月に北海道が実施した「俱登山川災害復旧工事」。俱登山川は、2004年の人工孵化稚魚の放流開始を皮切りに、当会が取り組んできた「イトウ再導入実験」の主舞台です。同振興局と協働で流程5基の農業用落差工に魚道を新設するなどした結果、2012年には再導入イトウの自然繁殖、また2019年春には再導入第2世代野生魚の自然繁殖が確認されました（会報50号参照）。

ところが、昨年7月の台風で川沿いの農地に水害が及んだため、地元の要望を受ける形で、北海道が「復旧工事」を計画し、今年3月までに、3工区計2150mの区間で河道内（川岸）の立木皆伐・表土掘削除去などの工事が行なわれました。こんもり茂っていた川辺林や風倒木が消えて水面が丸裸になり、起伏に富んでいた川が直線／平滑化されました。この区間でのイトウの繁殖成績にどんな影響が出るかは、現在のところ不明です。

当会はこの工事の着工前から、同建設管理部真狩出張所に対し、数度にわたって、「流域住民のみなさまの安全とともに、イトウ生息環境保全にも配慮してほしい」と伝達し、着工前の計画説明と協議の約束を交わしていましたが、結果的に反故にされてしまいました。

当会の抗議に対し、真狩出張所は5月26日、ニセコ町内で当会会員を対象とした説明会を開き、「オビラメの会との情報共有と意見交換・合意形成を約束していたのに欠落させてしまった」と認めたうえ、所長らが陳謝しました。

また、再発防止を求める当会の北海道知事あて要望書に対し、北海道建設部長から7月に届いた回答文書には、「河道内における堆積土砂の除去や樹木伐採など、適切な維持管理を行うための工事が必要な際には、貴会と十分調整し、ご助言等をいただきながら、イトウの生息・繁殖環境に配慮した工事に努めていきたい」と記されていました（これらの文書はオビラメの会ウェブサイトでご覧いただけます）。

治水と生物多様性の両立は、古くて新しい課題です。当会は、流域のみなさんと一緒に、イトウの生息南限＝尻別川ならではの解決策を探していきたいと考えています。



川があふれる一因とされる岸辺の茂みですが、野生動物にとっては重要な生息場所です。伐採工事が計画されている現場で、河川管理者から説明を聞くオビラメの会会員やニセコ町役場職員たち。9月18日、ニセコ駅近くの尻別川で、平田剛士撮影。

2019年度オビラメの会総会報告

吉岡俊彦会長・山根敏夫副会長体制がスタート

オビラメの会は7月6日午後、ニセコ町民センターで2019年度通常総会を開催しました。規約にもとづいて役員改選が行なわれ、5月16日に亡くなった草島清作会長に代わり、吉岡俊彦副会長が新会長に推挙され、満場一致で承認されました。新副会長には山根敏夫理事が就任。長く会計監査を務めてくださった山本契さんが退任され、大井秀則さんが新しい監査に就任されました。2019年度の役員は右表の通りです。

総会ではまた、イトウ親魚飼育管理、イトウ繁殖地見まもり隊、再導入イトウモニタリングなどの事業計画と、総額114万7000円の2019年度予算を決定しました。



総会終了後、場所を事務局(ニセコ町内の川村洋司事務局長宅)に移して、今後の計画を話し合うオビラメの会メンバーたち。

オビラメの会役員会名簿

役職	氏名	住所
会長	吉岡俊彦※	ニセコ町
副会長	山根敏夫※	倶知安町
事務局長	川村洋司	ニセコ町
会計	菅原俊宏	蘭越町
理事	玉井秀樹	高槻市
	浪坂洋一	南富良野町
	山根敏夫(兼任)	倶知安町
	藤原弘昭	札幌市
	沼田雄一	岩見沢市
	大石剛司	横浜市
幹事	大串伸吾	寿都町
	坂田潤一	札幌市
	足立 聡	札幌市
会計監査	平田剛士	滝川市
	藤盛 聡	札幌市
	大井秀則※	倶知安町

2019年10月現在。※は新任。

「オビラメの会」は新入会を歓迎します

当会は、会費と寄付金などで運営される非営利の市民団体です。みなさまのご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。年会費は2000円です。郵便局の振り込み用紙に住所、氏名、電話番号を明記のうえ、「入会希望」と書き添えて、右のゆうちょ銀行口座にお振り込み下さい(手数料はご負担願います)。会員期間はお振り込みいただいた日から年度末(5月)までです。おおむねひと月以内にニュースレターをお届けします。

- 年会費 2000 円
- ゆうちょ銀行
02720-9-11016
- 加入者名「オビラメの会」



オビラメの会ニュースレター 第51号(2019年11月発行)
OBIRAME Newsletter No.51 November 2019

- 発行 ■ 尻別川の未来を考えるオビラメの会
会長/吉岡俊彦 事務局長/川村洋司
- 編集 ■ 平田剛士
- 印刷 ■ (株)須田製版(北海道滝川市栄町3-5-16)
- 口座 ■ ゆうちょ銀行 02720-9-11016 オビラメの会
- 事務局 ■ 北海道虻田郡ニセコ町ニセコ315-198(川村方)
〒048-1511 TEL 090-8279-8605
<http://obirame.sakura.ne.jp/index.html>
©2001-2019 Obirame Restoration Group

水と空気、みどりの大自然

ニセコが好きだ

楽しんだあとは川を語ろう

まぐろ屋十割

ニセコ町富士見 65 TEL/FAX 0136-44-2472

Email / itou110@sa2.gyao.ne.jp